



Newsletter

No. 35 September 30 2019

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点

学生時代を振り返って

本学には、4年次の学生海外基礎医学実習(プロジェクトセメスター)と6年次の海外臨床実習(Overseas Clinical Experience)という留学プログラムがあります。チリニュースレターでも紹介していますが、チリ大学にもプロジェクトセメスターとして2名の学生を派遣させて頂いています。

LACRC拠点員としてチリに赴任しているため、本学からの学生らと交流することがありますが、彼らの臨床や基礎研究への考え方や将来に向けての展望などを伺うと、いつも意識の高さに驚かされます。私の意識が低かったこともあるのですが、自分が彼らと同じ学年だった頃は、先のことを漠然と考えることはあったかもしれませんが、進級するためだけに授業や実習をこなしていたような記憶があります。

私は2003年に本学を卒業しましたが、在学中には現在のような留学プログラムはありませんでした。また、卒業した年はスーパーローテーション(現在の2年間の初期臨床研修制度)が始まる前年であったため臨床研修マッチング制度もありませんでした。身近な先輩や同級生の殆どが本学のいずれかの医局に所属するような時代でした。

全員が興味をもっているわけではないでしょうが、学生のモチベーションを高めるような留学プログラムや、希望の研修先に入るための臨床研修マッチング制度が目前にあれば、他者との競争があり大変でしょうが、自分の将来のことや目指す方向性などについて自然と考えるようになり、学生のうちから色々な準備が出来るようになるのではと思いました。

私自身が学生だった当時は、実習や試験、部活、バイトなどで忙しくしているように思っていたのですが、卒業して働き始めてからの方が遥かに忙しいです。家庭を持つようになると自分のためだけに使える時間は限られていきます。

学生のうちに多くのことを経験して、広い視野を持つことは、将来にとって必ずプラスになると思います。本学から幅広い分野で活躍する人材が育っていくことを祈念し、本巻頭言を締めさせていただきます。

小田 柿 智之 消化器病態学分野



LACRC TMDU
IN CHILE
Latin American Collaborative Research Center
Santiago de Chile



Contents

ご挨拶	1
JDプログラム	2
PRENECの進捗状況	3
プロジェクトセメスター	4
活動報告	5

ジョイント・ディグリー・プログラム

ジョイント・ディグリー・プログラム(以下JDP)の2019年度10月入学の試験が、9月に本学及びチリ大学合同の学術委員会により行われ、第四期生となる学生が一名選出されました。本号ではこの学生の入学への思いを掲載しています。

2019年度10月入学JDP学生の決定

カルラ・アレサンドラ・カサーナ・アバド医師

この度、JDPへの入学が正式に決まり、大変光栄に思っております。本プログラムへの入学により、高度な専門技術を習得し、臨床、主に外科の分野を強化できる大変貴重な機会となると確信しております。

大腸がんは、世界的にみても主な死因の一つで、大きな社会問題ですが、これに集学的なアプローチで診断・治療をするためには、高度な知見が求められます。



また、優秀な外科医となる為には、臨床のみならず研究に関してもしっかり学ぶ必要があると考えています。

チリ大学、東京医科歯科大学及びクリニカ・ラス・コンデス(以下CLC)間における、この国際的なプログラムは、大腸病変の早期診断及び、適切な治療を行う上で、非常に有益なものだと信じております。このプログラムにより必要な知識を身につけ、社会に貢献できればと考えております。



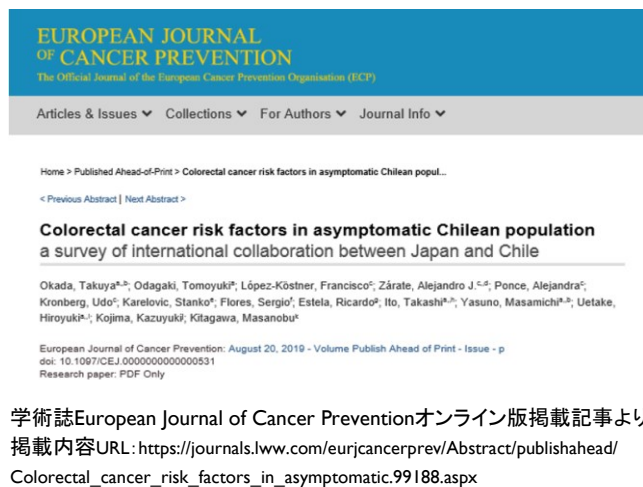
入学試験後の様子
(左よりオンライン教授、カサーナ医師、ロベス准教授、トレス准教授)

PRENECの進捗状況

大腸癌早期診断プロジェクト(PRENEC)の最新情報をご報告いたします。

プンタ・アレナス、サンティアゴ、バルパライソ、バルディビア、オソルノ、コキンボの6都市に加えて、コンセプションでPRENECが開始されましたが、バルパライソとコンセプションで運営に関する問題が生じたため、現在、休止状態となっています。国外ではパラグアイにおいて、PRENECのPilot studyが終了し、本格的な開始に向けて準備を進めています。

元チリ拠点派遣教員による論文の掲載



The screenshot shows the abstract page of a research paper. The journal title is 'EUROPEAN JOURNAL OF CANCER PREVENTION'. The article title is 'Colorectal cancer risk factors in asymptomatic Chilean population a survey of international collaboration between Japan and Chile'. The authors listed are Okada, Takuya^{a,b}, Odagaki, Tomoyuki^a, López-Köstner, Francisco^c, Zárate, Alejandro J. ^{c,d}, Ponce, Alejandra^e, Krenberg, Udo^f, Karelovic, Stanko^g, Flores, Sergio^h, Estela, Ricardo^g, Ito, Takashi^{a,b}, Yasuno, Masamichi^{a,b}, Uetake, Hiroyuki^a, Kojima, Kazuyuki^g, Kitagawa, Masanobu^a. The publication date is August 20, 2019. The URL for the abstract is https://journals.lww.com/eurjncancerprev/Abstract/publishahead/Colorectal_cancer_risk_factors_in_asymptomatic.99188.aspx.

本年8月20日、LACRCの前赴任者である本学の岡田卓也特任講師(統合国際機構 グローバル企画・推進部門所属)による論文「Colorectal cancer risk factors in asymptomatic Chilean population a survey of international collaboration between Japan and Chile」が学術誌、European Journal of Cancer Prevention 誌に掲載されました。

本研究では、2012年から2017年までのPRENEC参加者23,845名のデータから症例対照研究を行い、チリ人における大腸がん発症の危険因子を分析しました。その結果、男性、高年齢、食物繊維摂取量が少ないグループでは大腸がんの発症率が有意に高いことが明らかになりました。また高血圧や糖尿病を有するグループや、アルコール・肉類の摂取量が多いグループも発症率が高くなる可能性が示されました。これらの成果より、チリの大腸がんの一次予防に繋がることが示唆されました。PRENEC責任者であるロベス医師やプロジェクトに係わるチリ人医師からも、これらを大いに活用し、更なる大腸がん予防につなげたいとコメントがありました。

PRENEC拠点長会議



拠点長会議の様子

7月25日、CLCで開催された国際シンポジウム、がん研究所開所式のイベントに合わせて、PRENECの各拠点長が集まり、会議が開かれました。

本会議では、PRENECの運営に関して話が進められました。各拠点での問題点、円滑に運営を進めるための対策など、それぞれの拠点での経験をもとに活発な協議が行われました。

今後の運営に反映され、順調に展開されることが期待されます。

プロジェクトセメスター

本学は、2010年から学生海外基礎医学実習(プロジェクトセメスター)の目的で、医学科4年生を約4~6カ月に渡ってチリの研究施設に派遣しています。今年度も2名の学生がチリ大学の研究室に所属し、6月初旬より研究に取り組んでいます。本号ではそれぞれの学生体験記をお伝え致します。

学生体験記

澤口圭宏 チリ大学 感染症分野所属

21.これはスペイン語を公用語としている国の数だそうです。チリもそのような国々のひとつになります。しかし、一口にスペイン語といっても国ごとに個性が存在しています。チリは特に独特なようで、チリ人にスペイン語について尋ねると、“Los Chilenos hablan mal (チリ人の話すスペイン語はひどい)”と言われます。ところがとても興味深いことに、チリ人は総じてこのことを嬉しそうに話すのです。どうしてそんなにも嬉しそうなのか。そんな疑問を抱えたまま、先日ペルー・ボリビア・チリと3カ国をまたぐ旅行をしてきました。

ペルーやボリビアはゆっくりと綺麗に発音するためとても聞き取りやすいのが特徴です。そんな聞き取りやすいスペイン語に感動しながら旅をすすめていたある日、近くから現地の人とは違うスペイン語が聞こえてきました。もしやと思って話しかけてみるとチリの方で、会話の中ではやはり嬉しそうにチリのスペイン語について語っていました。そのとき気づいたことは、チリ人にとってチリのスペイン語は大事なアイデンティティだということでした。日本で関西の方が関西弁に誇りを持っているように、チリ人も多くのスペイン語圏の中でチリのスペイン語を大事にしていたのです。

そのような発見があった先日の旅行ですが、気が付けば残りのチリ生活も約1ヶ月となってしまいました。最後まで最大限の経験をできるように頑張っていきたいと思います。



ボリビアのウユニ湖にて

原田大輝 チリ大学 認知神経科学分野所属

早くも3カ月以上が経過し、この研究期間も折り返し後半となりました。9月は連休が続く上、旅行の予定もかなり入っているので今回は8月までを振り返ってみます。

研究は毎週の議論、毎日の論文検索・紐づけ、神経モデルの更新、また、関連知識の獲得を行ってきました。大体のプログラミングは終了したので、最近はこの研究期間での着地点や次のステップを議論したり、ポスターや論文形式の記録をとったりしています。今年から始まったプロジェクトなので帰国後も取り組むことになりそうです。陽気なラボメンバーとも結構仲良くなることができ、毎週なにかしらイベントやパーティーを楽しむことができました。アメリカからの短期留学生が帰国するなど、様々な交流関係の変化がありました。どの部分でもよい方向に向かっていっていると感じています。最近トルコから来たメンバーと仲良くなり、9月末にはペルーで1週間ほど旅行する予定です。生活面では一時期体調が優れなかったのですが、積極的に温かい飲み物を摂取したり、十分な睡眠をとることで回復してきました。今後も研究はできる限りハードに、他はこちらのペースの合わせる感じで精進して参ります。



8月末の慰労会@Pedro教授の別荘に向かう際のベストショット

LACRC活動報告

国際シンポジウムへの参加



開所後の様子(左よりCLCがんセンター創始者のアセド医師、ロベスがん研究所所長、チョマリ院長、ナバリ理事長)



オソルノのPRENEC拠点長であるカセレス医師(右)と記念撮影

7月25・26日、ブラジルのALBERT EINSTEIN病院とCLC合同で行われた国際シンポジウムH-ONCOSURがCLCにて開催されました。同シンポジウムで、小田柿助教が早期大腸がんの内視鏡治療に関する発表を行いました。

また、このシンポジウム内で、CLCに開設されたがん研究所(※)の開所式が行われました。PRENECの責任者であるロベス医師は、がん研究所の所長に就任しており、冒頭の挨拶で、がん研究所開設に至る歴史の中で、PRENECに関する紹介があり、本学とのつながりが重要であったことを強調していました。

※2019年7月より既存のCLCがんセンターは、CLCがん研究所へと名称が変更されました。



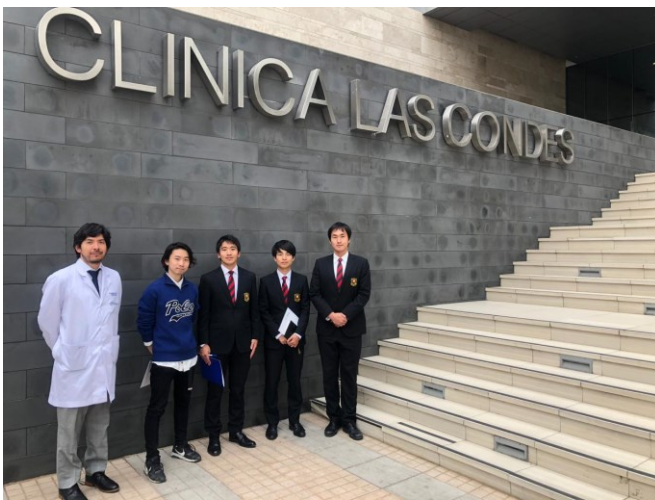
発表会場入り口にて

慶應義塾大学学生団体の訪問

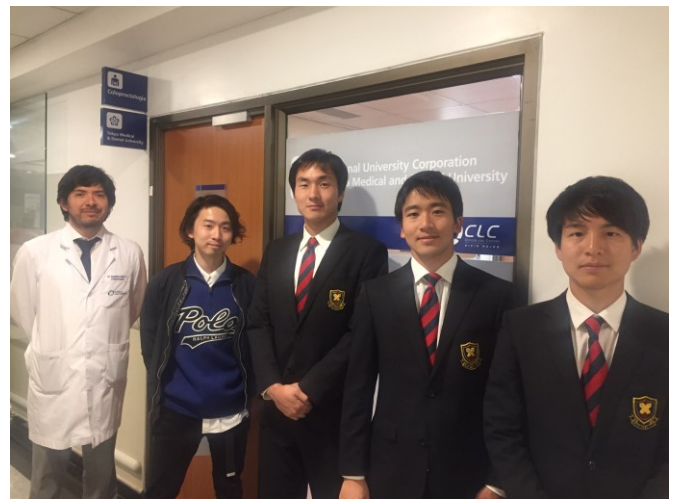
慶應義塾大学国際医学研究会(IMA)の学生らが、日本の夏季休暇を利用して南米の様々な都市の医療施設等の見学をしており、その一環として、チリでの遠隔医療の現場を調査するためにサンティアゴを訪れました。

本学の海外拠点があることから、8月21日に施設見学の目的でCLCに訪れました。現在、チリに留学中の本学のプロジェクト・セメスターの学生も参加し、サラテ医師の案内のもと各部署を回りました。

短い訪問でしたが、CLCの施設だけでなく本学のプロジェクト及び、LACRCオフィスを知っていただく良い機会となりました。



CLC玄関前



LACRCオフィス前にて

編集後記

先日チリのピネラ大統領が2020年度予算について言及し、保健省には今年度比5.7%増の予算を盛り込む見込みであると発表しました。これにより公立病院や保健所の設備改善、公的保険(FONASA)に加入する患者の負担額軽減、専門性の高い医師の育成をにかけています。本学が関わるPRENECは公的保険の加入者を対象としている為、この政策が、PRENECにも良い結果をもたらすことを期待しております。

今後もNewsletterを通してチリの様子をお伝えしてまいります。(早川美貴)

東京医科歯科大学ラテンアメリカ共同研究拠点
Latin American Collaborative Research Center
Newsletter No.35 September 2019

[発行日] 2019年9月30日

[制作] Latin American Collaborative Research Center
Tokyo Medical & Dental University
Clínica Las Condes
Lo Fontecilla 441, Las Condes, Santiago, Chile
Tel: (56-2) 2610 3780
Email: LACRC-CHILE.adm@cmn.tmd.ac.jp